

会議等出席報告書

甲斐市地域公共交通会議 事務局

会議等名	第6回甲斐市地域公共交通会議		
開催日	令和6年2月19日(月)午後1時30分から	場所	本館3階 大会議室
出席者	会長(瀬戸副市長)、委員(岡様(池田委員代理)、篠原委員、菊島委員、塩沢委員、穴水委員、茂木委員、中村委員、田中委員、進藤委員、森下委員、中村様(本住委員代理)、森委員、谷内委員、村松様(渡辺委員代理)、丸山委員) ※副会長(武藤委員)、野田委員、箭本委員は欠席 事務局(経営戦略課:酒井課長、石原経営企画係長、三井)		
1. 開会(司会:酒井経営戦略課長)			
2. 会長あいさつ(瀬戸副市長) 10月の会議に続き、本年度6回目の会議となる。本会議は、地域交通の確保と利便性の向上を図るとともに、地域公共交通計画の作成、また、その他必要な事項について協議することとなっている。本日の会議は、令和5年度補正予算に関する協議や、昨年実施したAIオンデマンド交通実証運行及び自動運転実証調査事業、また、甲斐市民バス医大線の土日実証運行について、それぞれ結果報告させていただく。本市公共交通の未来につながる有意義なものとなるよう、それぞれ知見に基づく忌憚のない御意見を願います。			
3. 案件(議長:瀬戸会長)			
(1) 令和5年度補正予算について <ul style="list-style-type: none">資料1-1及び1-2のとおり説明(事務局:石原経営企画係長)内容について承認される。 【質疑応答、意見】 <ul style="list-style-type: none">特になし			
4. その他			
(1) AIオンデマンド交通実証運行(11月1日~12月22日、竜王全域・敷島南部・双葉東部地域)の結果報告について <ul style="list-style-type: none">資料2及び資料3のとおり説明(事務局:石原経営企画係長) 【質疑応答、意見】 委員:AIオンデマンドであったからこういう結果になったのか、事務局の考えはどうか。また、6ページの予約キャンセルの未割当率とは、申込んだけれども運送を行わなかったということか。キャンセルの割合はどうか。キャンセルした場合は、なぜキャンセルをしたのか、どの様な理由があったのか。 事務局:AIオンデマンド交通については、現在運行している定時定路線の市民バス			

より、デマンド型ということで利用者は多くなっている。AI を用いている部分でどのルートで乗車して目的地に届けばいいのかが出ることによって利用率は増えているものと捉えている。また、未割当については、予約の際に既に先約があり、予約が入らなかった割合になっている。キャンセルの理由については、システム上で入力する箇所がないので不明であるが、キャンセル・未割当 51.4%のうち、約 14%が予約確定後にキャンセルをした率となっている。

委員：予約をしたけれど、キャンセルをしたということは、行くけれども何分待ちますよということでキャンセルしたのか。

事務局：予約は一週間前から予約が可能となっている。直前の利用予約はキャンセルがないと思うが、事前予約の場合、当日の予定でキャンセルしている場合もあると考えられる。

委員：乗継でモビリティハブを設置したが、乗継の回数はどのくらいか。どのくらい促進されたかがあれば、モビリティハブの必要性も評価できるのではないか。

事務局：乗継について、運行エリアは JR 中央線を境に、敷島南部・双葉東部地域と竜王地域の 2つのエリアに分け、それぞれのエリアに行く場合は、必ず竜王駅を経由して運行することから、竜王駅にモビリティハブを設置した。

(事後報告：竜王駅南口降車件数 234 件のうち、乗継件数は 125 件)

委員：6 ページの予約ツールで、電話、スマホ、PC とあるが、思った以上にスマホ、PC の割合が多い。利用者の年代別はどうか。状況が分かれば今後の参考となる。

事務局：資料には詳細な年代別は示されていないが、集計はできるので後日報告する。昨年度の双葉地域では、電話よりスマートフォンの利用が多い状況であった。(事後報告：詳細は別紙資料のとおり)

委員：18 ページの予約状況のアンケートについて、10%程度の利用者が電話が繋がらない状況であったとあるが、電話が集中して繋がらないのか確認したい。また、希望時間に予約ができないとあるが、先着順でその時間帯に希望者がいて予約ができないのか。

事務局：コールセンターの設置状況については、10 人が対応している。資料 5 ページの表左側の時間帯別予約受付件数では、9 時台の 151 件を中心に午前中にかかなりの件数があり、10 人で対応しても繋がらない状況もあった。希望時間に予約ができないことについては、表右側の乗車予定時間集計を見ると、9 時から 14 時くらいまでの間が混んでいる状況であり、利用したい時間帯が集中しており、車両に限りがあるため、割当できなかったものと考えられる。

瀬戸会長：車両 5 台で運行していたが、車両の効率的な移動、配車となっていたかの検証はどうか。

事務局：車両の稼働率等の検証については、来年度交通計画を策定するので、その部分も含めて協議を行っていく。

瀬戸会長：実効性のある取組みにしていくには、費用対効果を考えていかなければならない。稼働率や人数に対していくらかけて費用がどうかなど、今後検証をお

願います。

委員：利用料金について、乗車率のここからここまでの範囲が多く、その場合はいくらかかるのか、料金が出ていないがどうか。

事務局：実証運行ということで、昨年度から利用料金は無料ということで、皆さんに乗っていただき、どの様なものか体験していただいた。本来は運賃を取るが、アンケート調査でも 250 円から 500 円の回答が約 9 割あったので、そのことも踏まえ、実装する場合は、必ず料金設定が必要となるので、本会議に諮っていく。

(2) 自動運転実証調査事業の結果報告について

・資料 2 及び資料 4 のとおり説明（事務局：石原経営企画係長）

【質疑応答、意見】

委員：県内では、始めに富士吉田市、次に甲斐市、次に県が行っている。自動運転はレベル 2 で、レベル 4 を目指して行っている。今回市では、国の補助金を活用して、ゴルフカート型で乗車が 2 名ということで、運行したが、運行することの目的、意義はどうか。自動運転について、レベル 2 は日本全国見ても珍しいものではない。レベル 4 に向けて行ったのか。

事務局：目的については、10 月 25 日の本会議において内容説明しているが、高齢者の移動手段として、敷島北部地域で集落が点在していながら、高齢化の集落があり、その地域内で自動運転を活用しながら、本線にある停留所までの移動や、都市部でも地域内を巡回できるような活用ができないかということで実証運行を行った。

委員：事務局の説明の補足で、市民バスの未利用路線について、今後どのような形がいいのかということで AI オンデマンド交通を活用した。併せて来年度地域公共交通計画の策定の中で、今後本市の免許返納者や高齢者対策として、実際に実感してみないと計画に反映できない。今回民間タクシー事業者との協議では、AI を運行するにも人手不足の話もあった。計画策定の一つの手段として自動運転も人手不足対策になるのではないかという趣旨も踏まえている。一方、本市は脱炭素先行地域で、公共交通で目的地までの間、EV 自動車の運行など、様々な事業展開があるので、今回の AI や自動運転の実証運行は、各種計画に結び付けるためのものである。

瀬戸会長：今後の運用をどうするか。レベル 2 ということで、名古屋大学の教授が同乗して運行したが、レベル 2 のままにするのか、運転手のいないレベル 4 にするのか。全国の動向を踏まえて取り組んでいく。

(3) 甲斐市民バス医大線土日実証運行の結果報告について

・資料 2 及び資料 5 のとおり説明（事務局：石原経営企画係長）

【質疑応答、意見】

瀬戸会長：事業の目的を再度説明願う。

事務局：市民バス医大線については、平日のみの運行であり、利用者から土日運行を望む声もあり、今回土日実証運行を行った。この結果を来年度の地域公共交通計画で検証していく。

瀬戸会長：平日と比べて土日はどうなのか分かるとより理解が深まる。

事務局：平日の利用と比べると土日は約3割であった。PR不足もあると思うが、平日の目的地は医大が多く、土日の場合は医大よりイオンモールが主に利用する停留所であり、人数の差異があると考えられる。

5. 閉会（酒井経営戦略課長）

午後2時30分終了